

科目名	自然科学概論Ⅱ	科目分類	■教養科目	
			全学	■選択
英文表記	Natural Sciences II	開講年次	■1年	
ふりがな	むらなか たかし	修得単位	2 単位	
担当者名	村中 孝司			
授業の到達目標 及びテーマ	宇宙の成り立ちと太陽系・地球、日本列島の特色について概観し、自然科学の本質と学問的な特色、科学的方法と論理的思考について修得する。			
準備学習	地球外生命体は存在するか、タイムマシンは実在可能か、地球温暖化を食い止めるにはどうしたらいいか。自然科学にまつわる様々な問題点科学的な視点から考えてほしい。			
【授業概要】宇宙が誕生して137億年。現代人類は次々の科学的な発見や発明を繰り返して、自然現象を明らかにしてきた。しかし、宇宙の広がりや誕生、生命の起源、数多くの自然現象の多くが十分に明らかにされたわけではない。未知の自然現象に対して、科学者は現象に関する情報や問題点を発見、蓄積、整理し、分析することを通して仮説の検証を試みてきた。「自然科学」はといったのようにして生み出され、どのような道筋で発達してきたのか。また、人間社会において自然科学はどのような必要性に迫られてきたのだろうか。講義では、(1)宇宙の誕生と進化、地球について触れ、(2)日本の自然の特色と美しい自然景観、豊かさなどの特色を紹介する。また、(3)科学の誕生と発展、科学の要件と科学者の資質、科学的な研究の方法や考え方について考え、「自然科学」の人間社会における役割や科学的手法の重要性について考えることを目的とする。				
授業計画				
第1回	ガイダンス	自然科学とは何か	古代の宇宙観と現代の宇宙観	
第2回	宇宙の進化	宇宙の誕生と物質・光・重力、恒星		
第3回	時間と空間	時空を自由に移動できるか、地球外生命体は存在するか		
第4回	太陽系と地球	惑星、地球、火山と地震、自然災害から身を守るために		
第5回	日本の森林	日本の森林の豊かさ、自然景観と観光名所、新緑・紅葉		
第6回	日本の里山	里山からの恵み、生態系サービス		
第7回	日本の川と文化	山から海へ、回廊としての川、川からの恵みと農業の発達		
第8回	自然学から近代自然科学へ	古代ギリシア自然学、科学の大革命と近代自然科学の誕生		
第9回	科学の要件	「科学的」とは何か? 「科学」と「学問」の領域、疑似科学とは		
第10回	科学的方法	論理、演繹と帰納、観察と実験、科学的仮説と発見の論理		
第11回	情報の分類	元素の周期表、生物の二名法、自然分類と人為分類		
第12回	情報の収集と分析	標本抽出法、比較、原因と結果		
第13回	情報の信頼性、文献と資料	文献の種類、情報の種類、研究成果の公表手続き		
第14回	自然観	自然に対する人間の考え、西洋と東洋の自然観		
第15回	農耕の起源と伝播	自然と人間生活、根栽農耕文化、照葉樹林文化		
第16回	試験			
テキスト	配付資料			
参考文献				
評価の方法	試験、レポート、自然科学・環境問題に関する本の要約(自由課題)			
学生への メッセージ	「宇宙」や「自然」に対して、人間は宇宙、自然、生命をどのように認識していたのか。時空を自由に移動できるのだろうか。科学的に論理的に考えます。			

科目名	リーダーシップ論	科目分類	□教養科目 ■専門科目	
			法律	□必修 ■選択
			観光	□必修 ■選択
英文表記	Theory of Leadership	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年	
ふりがな	いとうごろう	修得単位	2 単位	
担当者名	伊藤護朗			
授業の到達目標 及びテーマ	リーダーに求められる能力・資質を身につける 「信頼関係の構築」について考える			
準備学習	実践に役立つ授業を目指し、事例や実例を多く取り入れるので、この科目の内容に関連するメディアの報道に関心をよせて欲しい。			
【授業概要】リーダーシップとは、変革を成し遂げる力量を指す。近年リーダーシップの重要性が高まっている背景の一つに、ビジネスの世界で競争と変化が激しさを増していることがあげられる。同じことを繰り返したり、あるいはそれを少しばかり改善したくらいでは、もはや成功を手にするにはできない。本講では、「リーダーシップの科学」や「人心掌握のベース作り」などを取り上げ、変革を余儀なくされている新しい環境を生き抜く方法を模索する。				
授業計画				
第1回 リーダーシップとは				
第2回 職場におけるリーダーシップ				
第3回 人心掌握のベース作り				
第4回 公正な世界観の育成				
第5回 リーダーシップの科学（1）－「PM理論」「P機能」「M機能」など				
第6回 リーダーシップの科学（2）－「因子分析」「配慮」「体制づくり」など				
第7回 組織集団の状況とリーダーシップ				
第8回 動機づけ理論（欲求の喚起）				
第9回 リーダーになるための条件				
第10回 人間関係管理論（1）－「人間（じんかん）距離」を中心に				
第11回 人間関係管理論（2）－「青い鳥症候群」「燃えつき症候群」など				
第12回 人間関係管理論（3）－ 信頼関係を中心に				
第13回 説得力を高めるには －「ハロー（後光）効果」など				
第14回 説得者の魅力効用 －「理念と方針」「人脈」「振る舞い」など				
第15回 説得効果を高める手順 －「ロールプレイング」など				
第16回 テスト				
テキスト	特に使用しない。必要に応じてプリント（資料）配付			
参考文献	ジョン・コッター著、黒田由貴子訳「リーダーシップ論」（ダイヤモンド社）			
評価の方法	出席状況・受講態度・テストなどを総合して評価する。			
学生への メッセージ	この講義で提示する考え方や事例を一つの手がかりとして、それぞれ個性的・創造的なリーダーシップの在り方を模索して欲しい。			

科目名	環境論Ⅱ (環境のはなしⅡ)	科目分類	■教養科目 □専門科目	
			法律	□必修 ■選択
			経済	□必修 ■選択
英文表記	Environmental ScienceⅡ	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年	
ふりがな	りきいし くにお	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
担当者名	力石 國男	修得単位	2 単位	
授業の到達目標 及びテーマ	[到達目標] 身近な自然に対する理解を深め、気象災害や自然災害から身を守る方法を身につけること。 [テーマ] 身近な自然と気象災害・自然災害。			
準備学習	普段から自然の変化を体で感じるように心掛けて、新聞やテレビで報道される異常気象・気象災害・自然災害に関心を抱いてください。			
【授業概要】 身近な自然環境に焦点を当てて、四季の変化や、異常気象・気象災害・自然災害の発生原因に対する理解を深めます。				
授業計画				
鶴第1回 ガイダンス				
第2回 身近な気象(1) —大気の構造と気候システム—				
第3回 身近な気象(2) —空と雲—				
第4回 身近な気象(3) —雨と雪—				
第5回 身近な気象(4) —天気の時節変化—				
第6回 地震災害(1)				
第7回 地震災害(2)				
第8回 津波災害(1)				
第9回 津波災害(2)				
第10回 台風災害(1)				
第11回 台風災害(2)				
第12回 集中豪雨災害(1)				
第13回 集中豪雨災害(2)				
第14回 雪害(1)				
第15回 雪害(2)				
第16回 試験				
テキスト	資料を配付します。パワーポイントも使います。			
参考文献	必要に応じて授業中に指示します。			
評価の方法	ミニテスト(随時実施)および試験。出席状況も考慮します。			
学生への メッセージ	郷土の自然に対する愛着を深め、災害に対する備えを忘れないようにしてください。			

科目名	入門経済学	科目分類	□教養科目 ■専門科目	
			経済 マネジ	■必修 □選択 ■必修 □選択
英文表記		開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年	
ふりがな	かわい のぶはる	開講期間	2単位	
担当者名	河合 伸治			
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕 経済学の基本的な見方・考え方を習得する。 〔テーマ〕 経済学とはどのような学問か？			
準備学習	日頃から新聞やニュース等をよく見て、世の中で何が起きているのか興味・関心を持って下さい。			
<b>【授業概要】</b> 経済学の基本的な見方・考え方を習得できるような授業を展開していきます。				
授業計画				
第1回 ガイダンス 経済学的の基本的な考え方				
第2回 市場の役割				
第3回 価格決定のメカニズム				
第4回 競争と独占				
第5回 政府の役割				
第6回 財政と財政政策				
第7回 金融の役割				
第8回 金融政策				
第9回 中間のまとめ				
第10回 国民所得				
第11回 経済成長とインフレ				
第12回 景気循環				
第13回 国際貿易				
第14回 国際金融				
第15回 補足とまとめ				
第16回 試験				
テキスト	必要に応じてプリントを配布します			
参考文献	マンキュー「マンキュー入門経済学」			
評価の方法	出席点(確認テスト等も含む)40%, 試験60%			
学生への メッセージ	経済学は英語や数学と同じく毎回の授業で得た知識を着実に積み上げていくことによって理解が深まる科目です。毎回の授業を確実にモノにできるよう、特に授業の復習に力点を置いて下さい。授業では適宜簡単な確認テスト等も行う予定です。			

科目名	ミクロ経済学	科目分類	□教養科目 ■専門科目	
			経済	□必修 ■選択
			マネジ	□必修 ■選択
英文表記	Micro Economics	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年	
ふりがな	かわい のぶはる	修得単位	2単位	
担当者名	河合 伸治			
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕 ミクロ経済学の基本的な見方・考え方を習得する 〔テーマ〕 ミクロ経済学とはどのような学問か？			
準備学習	入門経済学で習得した知識があることを前提に講義を進めていきますので、授業の復習をしておいて下さい。			
<b>【授業概要】</b> ミクロ経済学の基本的な見方・考え方を習得できるような授業を展開していきます。				
授業計画				
第1回 ガイダンス ミクロ経済学の基本的な考え方				
第2回 需要と供給				
第3回 需要曲線と消費者行動				
第4回 問題演習				
第5回 費用の構造と供給行動				
第6回 市場取引と資源配分				
第7回 問題演習				
第8回 ゲームの理論入門				
第9回 独占と競争の理論				
第10回 問題演習				
第11回 市場の失敗				
第12回 不確実性と不完全情報の世界				
第13回 問題演習				
第14回 消費者の理論				
第15回 問題演習				
第16回 まとめ				
テキスト	必要に応じてプリントを配布します			
参考文献	マンキュー「マンキュー入門経済学」 マンキュー「マンキュー経済学Ⅱ ミクロ編」			
評価の方法	出席点(確認テスト等も含む)40%, 試験60%			
学生への メッセージ	経済学は英語や数学と同じく毎回の授業で得た知識を着実に積み上げていくことによって理解が深まる科目です。毎回の授業を確実にモノにできるよう、特に授業の復習に力点を置いて下さい。授業では問題演習及び簡単な確認テスト等を繰り返し行うことによって知識の確実な習得を目指します。			

科目名	国際経済学Ⅱ	科目分類	□教養科目 ■専門科目	
			経済	□必修 ■選択
英文表記	International Economics Ⅱ	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年	
ふりがな	まえだ なおや	修得単位	2 単位	
担当者名	前田 直哉			
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕 国際貿易の基礎理論を理解する。 〔テーマ〕 国際貿易論			
準備学習	授業の前にテキストを必ず読んでおくこと。			
【授業概要】 1990年代に入って経済のグローバル化が急速に進んだ。この現象を理解するためには国際経済学の理論のみならず、その歴史・制度についても学習することが必要である。本講義の目的は国際貿易の基礎理論を中心に学ぶことにある。				
授業計画				
第1回 ガイダンス				
第2回 国際貿易の基礎理論：リカードの比較生産費説(1)				
第3回 リカードの比較生産費説(2)				
第4回 ヘクシャー＝オリーン・モデル(1)				
第5回 ヘクシャー＝オリーン・モデル(2)				
第6回 国際貿易の利益：自由貿易の厚生分析(1)				
第7回 自由貿易の厚生分析(2)				
第8回 小テスト				
第9回 完全競争と貿易政策：小国開放経済と関税政策(1)				
第10回 小国開放経済と関税政策(2)				
第11回 小国開放経済と輸出数量制限(1)				
第12回 小国開放経済と輸出数量制限(2)				
第13回 小テスト				
第14回 現代の国際貿易論：規模の経済と国際貿易(1)				
第15回 規模の経済と国際貿易(2)				
第16回 定期試験				
テキスト	多和田眞(2010)『コンパクト国際経済学』 新世社。			
参考文献	特に指定しない。			
評価の方法	定期試験、小テスト(2回)、平常点。			
学生への メッセージ	授業の進め方と評価方法については初回のガイダンスで詳しく説明する。また、テキストを必ず持参すること。			

科目名	財政と国民生活	科目分類	□教養科目 ■専門科目	
			経済 マネジ	□必修 ■選択 □必修 ■選択
英文表記	Public Finance and National Life	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年	
ふりがな	かわい のぶはる	修得単位	2単位	
担当者名	河合 伸治			
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕 財政が国民生活とどのように関係しているのかを理解する。 〔テーマ〕 財政はどのように国民生活と関係しているのか？			
準備学習	入門経済学で習得した知識があることを前提に講義を進めていきますので、授業の復習をしておいて下さい。			
【授業概要】 財政がどのように国民生活と関係しているのか理解できるような授業を展開していきます。				
授業計画				
第1回 ガイダンス 財政とは① - 市場と政府-				
第2回 財政とは ② - 財政の3つの役割(①資源配分②所得再分配③経済安定化)-				
第3回 税 ① - 税の種類と基本原則-				
第4回 税 ② - 税の誘因効果-				
第5回 税 ③ - 税の転嫁と帰着-				
第6回 税 ④ - 税の超過負担-				
第7回 所得再分配① - 所得再分配とは何か-				
第8回 所得再分配② - 所得再分配をめぐる諸問題-				
第9回 中間のまとめ				
第10回 公債 ① - 公債の負担をめぐる伝統的な議論-				
第11回 公債 ② - 公債の中立性-				
第12回 社会保障① - 社会保障とは何か-				
第13回 社会保障② - 公的年金-				
第14回 社会保障③ - 年金改革-				
第15回 まとめ				
第16回 試験				
テキスト	必要に応じてプリントを配布します			
参考文献	授業中に適宜紹介して行きます			
評価の方法	出席点(確認テスト等も含む)40%, 試験60%			
学生への メッセージ	財政学は応用経済学の一分野であり、経済学と同じく毎回の授業で得た知識を着実に積み上げていくことによって理解が深まる科目です。毎回の授業を確実にモノにできるよう、特に授業の復習に力点を置いて下さい。授業では適宜簡単な確認テスト等も行う予定です。			

科目名	現代ファイナンス論Ⅱ	科目分類	<input type="checkbox"/> 教養科目 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目
			<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択
英文表記	Theory of Modern Finance II	開講年次	<input type="checkbox"/> 1年 <input checked="" type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年
ふりがな	やまもと しゅん	修得単位	2単位
担当者名	山本 俊		
授業の到達目標及びテーマ	自らが直面するファイナンスに関する課題に対して、学習したことを基にして主体的に考えることができるようになること。		
準備学習	①高校数学（特に、数列、極限、分散）の復習。ただし、前提とはせずに、授業でもその都度説明するので、苦手な受講者はこの際に習得することを期待する。 ②授業の復習は必ずその日に行うこと。		
【授業概要】現代ファイナンス論Ⅰで学習した金利と資産価格（第5回、6回、7回、8回）、金融派生商品（第9回、10回）、企業金融（第11回、第12回）の部分に焦点をあて、より専門的かつ実践的に学習する。ファイナンスで多用される手法に慣れるため、定期的に課題（確認問題）を出すので、解答後に提出して欲しい。			
授業計画			
第1回 テーマ：ファイナンスの基本事項の確認、講義資料配布 ガイダンス、ファイナンスと金融制度及び金融市場			
第2回 テーマ：時間価値、講義資料配布 割引率、現在価値、将来価値などの基礎概念の確認			
第3回、第4回、第5回 テーマ：投資評価、講義資料配布 第3回 投資評価の2つの考え方 第4回 正味現在価値法 第5回 内部收益率法			
第6回、第7回 テーマ：債券、講義資料配布 第6回 割引債、利付債 第7回 利回り、純粋期待仮説、イールドカーブ、金利リスク			
第8回 テーマ：株価決定、講義資料配布 第8回 配当割引モデル（DDM）、一定成長DDMと比較静学			
第9回、第10回 テーマ：リスク管理の基本、講義資料配布 第9回 リスク管理の基本的考え方、リスクの定量化 第10回 リスクの定量化の続き、リスクヘッジ			
第11回、第12回、第13回 テーマ：ポートフォリオ理論、講義資料配布 第11回 2パラメーターアプローチ 第12回 資産選択の分析、期待収益、2資産のポートフォリオの検討 第13回 効率的ポートフォリオ、ポートフォリオフロンティア、最適ポートフォリオの考え方			
第14回 テーマ：CAPMモデル、講義資料配布 資本市場線、市場でのリスクプレミアムの考え方、ベータ、証券市場線の考え方			
第15回 テーマ：オプション、講義資料配布 オプションの仕組と種類、プットコールパリティ、ボラティリティ、オプションプレミアム、2項モデル			
第16回 期末試験 試験範囲： 第1回から第15回まで。			
テキスト	講義資料を配布する。以下の文献を手元に置いて学習することを薦める。 ボディ・マートン『現代ファイナンス論』（改訂版）ピアソンエデュケーション、2000年		
参考文献	① 釜江廣志 他『証券論』有斐各ブックス、2004年 ② 米沢康博 他『新しい企業金融』有斐閣、2004年		
評価の方法	期末試験 60%、課題（確認問題）30%、出席状況 10%の合計を基に評価する。 優：80%以上、良：70%以上、可：60%以上、不可：60%未満 課題は受講者が理解度を自ら確認するという意味でも重要である。 試験については努力が報われるような出題を心がける。		
学生へのメッセージ	第11回目以降では、複雑な理論についても言及する。受講者の積極的な学習姿勢を期待する。 ただし、数式の厳密な展開よりも、考え方を重視する。		

科目名	資本主義経済のしくみ II	科目分類	□ 専門科目	
			経済 マネジ	□ 選択 □ 選択
英文表記	Capitalism II	開講年次	□ 2年	
ふりがな	しまだ こうや	修得単位	2単位	
担当者名	嶋田 耕也			
授業の到達目標 及びテーマ	[到達目標] 20世紀経済の大きな特徴を理解すること。 [テーマ] グローバル資本主義への転換			
準備学習	資本主義経済の生きた教材が新聞であり、テレビのニュースです。現実への関心が経済学への理解を助けます。 ・			
<b>【授業概要】</b> 20世紀は、企業規模の拡大とともに、経済政策のあり方が大きく変化する時代です。どのような要因が20,21世紀経済に根本的変化をもたらしたのか、考えてみましょう。				
授業計画				
第1回 第二次産業革命				
第2回 資本規模の巨大化 カルテル・トラスト・コンツェルン				
第3回 銀行の役割と株式会社制度				
第4回 金融資本の成立				
第5回 ビッグ・ビジネスによる資本輸出政策				
第6回 帝国の形成				
第7回 ケインズ理論の登場				
第8回 経済政策の大きな転換				
第9回 管理通貨制度への道				
第10回 冷戦体制とパックス・アメリカーナ				
第11回 第二次大戦後の国際経済				
第12回 1970年代初頭の二つのショック				
第13回 変動相場制への移行				
第14回 1980年代の世界経済				
第15回 1990年代の世界経済				
第16回 テスト				
テキスト	使用せず。プリント配布、および板書			
参考文献	授業時に指示します。			
評価の方法	出席数とテストの点数			
学生への メッセージ	現実を見る視点を身に付けよう			

科目名	日本経済の歩みⅡ	科目分類	□教養科目 ■専門科目	
			経済学科	□必修 ■選択
			マネジメント学科	□必修 ■選択
英文表記	Japanese Economic History Ⅱ	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年	
ふりがな	すずき たつろう	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
担当者名	鈴木 達郎	修得単位	2単位	
授業の到達目標及びテーマ	[到達目標] 日本経済の歴史的特質を明らかにすること [テーマ] 明治維新时期と産業革命期の日本経済			
準備学習	歴史のおおまかな流れをつかんでおくこと。また、手元に年表を常においておくこと。			
【授業概要】 本講義が対象とする時期は、1853年のペリー来航から1910年の韓国併合までの明治維新时期、産業革命期である。この時期に日本は近代化へのテイクオフに一応の成功を収めた。ただしその過程は、手放しで賞賛されることでもなければ、一方的な非難があびせられることでもない。本講義の課題は、なぜ日本がテイクオフに成功することができたのかを経済史の視点から考察することにある。				
授業計画				
第1回 開国の経済的影響				
第2回 開国の政治的影響—幕末の政治過程—				
第3回 地租改正				
第4回 秩禄処分				
第5回 殖産興業				
第6回 明治国家の成立				
第7回 小括—明治維新时期の日本経済の特質—				
第8回 産業革命の開始				
第9回 重工業の展開				
第10回 鉱山業の展開—財閥論—				
第11回 紡績業の展開				
第12回 製糸業の展開				
第13回 農業の展開—地主制論—				
第14回 植民地				
第15回 小括—産業革命期の日本経済の特質—				
第16回 定期試験				
テキスト	テキストは使用しない。講義のなかで資料を配付する。			
参考文献	講義のなかで紹介する。			
評価の方法	プリントの提出および定期試験によって総合的に判定する。			
学生へのメッセージ	司馬遼太郎作品でいえば、『龍馬がゆく』『燃えよ剣』の時代から『坂の上の雲』の時代へ、それらも読んでみよう。			

科目名	銀行の業務	科目分類	<input type="checkbox"/> 教養科目 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目
			<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択
英文表記	Management of Banks	開講年次	<input type="checkbox"/> 1年 <input checked="" type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年
ふりがな	あきたけんしんようくみあい やまもとしゅん	修得単位	2単位
担当者名	秋田県信用組合 山本 俊		
授業の到達目標及びテーマ	金融機関の主要な役割は資金供給と同時に情報生産活動にある。この情報生産の側面を学習し、金融機関の役割を貸す側の視点から理解できるようになること。		
準備学習	① 預金を扱う金融機関の業務の概要を事前に調べておくこと。 ② 授業の復習は必ずその日に行うこと。		
【授業概要】現代ファイナンス論Ⅰの金融機関の機能（第13回、14回、第15回）の部分に焦点をあて、特に、銀行の情報生産活動に注目する。中小企業金融や地域金融にも言及する。また、秋田信用組合から講師をお招きし、実務家の視点から、講義して頂く予定である。貴重な機会であるので、多くの受講生を期待する。			
授業計画			
第1回 テーマ：金融機関の種類と機能、講義資料配布 ガイダンス、金融機関の種類と役割、金融機関の業務と現状			
第2回 テーマ：日本の銀行の状況と特徴、講義資料配布 銀行の定義と推移、銀行の貸借対照表と損益計算書、メインバンク制度			
第3回 テーマ：銀行預金とデリバリーチャンネル、講義資料配布 金融機関利用に関する意識調査(郵政総合研究所)、銀行店舗網とATMの変化と規制、預金需要			
第4回 テーマ：銀行の産業組織、講義資料配布 SCPパラダイムの視点、規模の経済の意味とU字型の平均費用曲線、範囲の経済の意味と費用補完性			
第5回 テーマ：銀行の市場規律、講義資料配布 取りつけ騒ぎとその防止、預金保険制度とモラルハザード、自己資本比率規制、貸し渋り			
第6回 テーマ：資金供給と銀行システム、講義資料配布 バランスシート制約、貨幣乗数、信用創造、コール市場と準備金、ハイパワードマネー、公開市場操作			
第7回、第8回、第9回 テーマ：中小企業金融、講義資料配布 第7回 中小企業の定義と現状、中小企業金融の特徴 第8回 中小企業への銀行融資、ディスカレッジド・ボロワーズ 第9回 公的資金と信用保証制度			
第10回、第11回、第12回 テーマ：信用組合講師による講義 第10回 第1回目講義：(参考)一昨年度の講義テーマは「信用組合とは」 第11回 第2回目講義：(参考)一昨年度の講義テーマは「信用組合の実際の仕事」 第12回 第3回目講義：(参考)一昨年度の講義テーマは「信用組合の地域社会における役割」			
第13回、第14回 テーマ：地域金融、講義資料配布 第13回 資金偏在、リレーションシップバンキングとアクションプログラム、営業地盤と収益率 第14回 地域銀行の効率性と営業地盤、地域銀行の姿勢、地域経済の振興			
第15回 テーマ：金融システムの安定性、講義資料配布 公的資金の注入、預金保険、金融再生プログラムとメガバンクの不良債権処理、安定化対策			
第16回 期末試験 試験範囲：第1回から第15回まで。			
テキスト	なし。配布する講義資料。		
参考文献	① 筒井義郎編『金融分析の最先端』東洋経済新報社、2000年 ② 藪下史郎『中小企業金融入門』(第2版)東洋経済新報社、2006年		
評価の方法	期末試験60%、課題(確認問題)30%、出席状況10%の合計を基に評価する。 優:80%以上、良:70%以上、可:60%以上、不可:60%未満 課題は受講者が理解度を自ら確認するという意味でも重要である。 試験については努力が報われるような出題を心がける。		
学生へのメッセージ	いかなる分野で活躍するにも、金融機関との関係は長く続く。よって、金融機関の重要な機能である情報生産の側面を理解しておくことは有用である。		

科目名	経済学の歴史Ⅱ	科目分類	□専門科目	
			経済	□選択
			マネジ	□選択
英文表記	The History of Economic Thought Ⅱ	開講年次	□3年	
ふりがな	しまだ こうや	修得単位	2単位	
担当者名	嶋田 耕也			
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕ケインズを中心に現代経済学を理解しよう。 〔テーマ〕ケインズ理論の革新点。			
準備学習	ケインズ、シュンペーター、レオンチェフそして新古典派を理解するためには、私たちの周りの現実に関心を持たなければなりません。			
【授業概要】ケインズによって現代の経済政策、および管理通貨制度の本質を、シュンペーターによって資本主義発展のダイナミズムを、レオンチェフによって産業間の結びつきを理解しよう。				
授業計画				
第1回 ケインズとその時代				
第2回 ケインズ理論 1				
第3回 ケインズ理論 2				
第4回 ケインズ理論 3				
第5回 ケインズ理論 4				
第6回 シュンペーターの経済理論 1				
第7回 シュンペーターの経済理論 2				
第8回 ケネー、マルクス、そしてレオンチェフ				
第9回 産業連関論の概要				
第10回 行列式 1				
第11回 行列式 2				
第12回 産業連関論 1				
第13回 産業連関論 2				
第14回 産業連関論 3				
第15回 経済学の歴史のまとめ				
第16回 テスト				
テキスト	使用せず。プリント配布、および板書			
参考文献	授業時に指示します。			
評価の方法	出席回数とテストの点数			
学生への メッセージ	20、21世紀は親ケインズか反ケインズかの時代です。			

科目名	生活と社会福祉	科目分類	専門科目	
				選択
英文表記	Social Welfare	開講年次	3年	
ふりがな	ふじもと つよし	開講期間	後期	
担当者名	藤本 剛	修得単位	2単位	
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕 最近に至る社会福祉の流れを理解し、今後の福祉のあり方について理解を深める。 〔テーマ〕 児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉			
準備学習	新聞の社会福利関連の記事を読んでおく。前週の講義内容を復習しておく。			
【授業概要】 少子高齢化が進展し、社会が大きく変化していく中で、社会福祉のありようも大きな変化に見舞われています。この授業では、社会福祉の基礎的な知識や考え方を学びながら、時代と共に変化する社会福祉の現状、課題、政策などについて、私たちの生活との関わりの中で捉え、共に考えていきたいと思えます。分野としては主に児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉を対象として取り上げます。また福祉サービスを支える経済的基盤、人的資源についても触れていく予定です。				
授業計画				
第1回 はじめに・社会福祉サービスとは何か				
第2回 わが国の社会福祉サービス				
第3回 社会福祉ニーズと運営体制				
第4回 児童福祉サービスの現状と課題①				
第5回 児童福祉サービスの現状と課題②				
第6回 児童福祉サービスの現状と課題③				
第7回 児童福祉サービスの現状と課題④				
第8回 障害者福祉サービスの現状と課題①				
第9回 障害者福祉サービスの現状と課題②				
第10回 障害者福祉サービスの現状と課題③				
第11回 障害者福祉サービスの現状と課題④				
第12回 高齢者福祉サービスの現状と課題①				
第13回 高齢者福祉サービスの現状と課題②				
第14回 高齢者福祉サービスの現状と課題③				
第15回 高齢者福祉サービスの現状と課題④				
第16回 まとめとテスト				
テキスト	プリントを使用します。			
参考文献	大今村理一編著『新しい時代の社会福祉サービス論』ミネルヴァ書房 『厚生労働白書』各年版			
評価の方法	試験、レポート、出席の総合評価			
学生への メッセージ	半期で行うには対象範囲が広い科目です。予習・復習を是非行ってください。			

科目名	地域の経済政策	科目分類	□教養科目 ■専門科目	
			経済	□必修 ■選択
			マネジメント	□必修 ■選択
英文表記	Regional Policy of Economy	開講年次	□1年 □2年 ■3年 ■4年	
ふりがな	のぐち ひでゆき	修得単位	2 単位	
担当者名	野口 秀行			
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕 地域経済の現状と課題の整理と課題の解決策 〔テーマ〕 地域経済の優勝劣敗			
準備学習	・常に復習しておくこと			
【授業概要】 なぜ過疎が進むのか？なぜ都市と地方との間に経済格差が生まれるのか？経済のグローバル化がなぜ地域経済を疲弊させているのか？これらの問題を解決していくためには、地域の経済政策は、どうあるべきなのかについて学ぶ。				
授業計画				
第1回	地域経済の活性化方策～日本経済の行方と地方経済			
第2回	産業構造転換と地域経済～浜松に見る地域の産業政策			
第3回	地域経済と産業インフラ整備（1）～東北地方の鉄道・港湾・空港・高速道路			
第4回	地域経済と産業インフラ整備（2）～東北地方の知的インフラ・大学			
第5回	平成の市町村合併と地域経済の変容～道州制・地方分権・地方税制			
第6回	産官学連携とインキュベーション～地域経済の再生に大学の果たした役割			
第7回	マイケル・ポーターの産業クラスター論			
第8回	90年代米国におけるクラスター形成			
第9回	わが国における地域クラスター形成～地方経済を支える科学技術の系譜			
第10回	東日本大地震と東北の先端産業			
第11回	創造化時代・知識経済への転換（1）			
第12回	創造化時代・知識経済への転換（2）			
第13回	秋田の産業政策～環日本海経済連携・中国東北部・ロシアシベリア地区との経済連携			
第14回	秋田のリーディング企業～世界的な高シェア企業・世界最先端の技術			
第15回	創造化時代・知識経済への転換と秋田～秋田は生き残れるのか			
第16回	期末試験			
テキスト	プリント配布			
参考文献	追って連絡します			
評価の方法	期中のレポートおよび期末試験の結果を総合して判断します。			
学生へのメッセージ	経済を面白く楽しく学びます			

科目名	新聞で読む経済事情	科目分類	□教養科目 ■専門科目	
			経済学科	□必修 ■選択
			マネジメント学科	□必修 ■選択
英文表記	Economic Conditions	開講年次	□1年 □2年 ■3年 □4年	
ふりがな	すずき たつろう	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
担当者名	鈴木 達郎	修得単位	2単位	
授業の到達目標及びテーマ	[到達目標] 日々の経済情勢の変化を分析する力を養う [テーマ] 経済リテラシーを新聞で鍛える			
準備学習	図書館には「日本経済新聞」が置いてある。時間に余裕があるときそれを閲覧しよう。			
<b>【授業概要】</b> 新聞の経済記事を難なく読めるようになることが経済リテラシーを身につけた証拠だとよくいわれる。また、就職活動対策として、新聞を読んでおくべきだということもよく指摘される。しかし、現実にはみなさんどうだろう。新聞を読んでいるだろうか。読んでいても経済欄を敬遠していないだろうか。これまで蓄えてきた経済学の知識が本当に自分のものになっているか、また、それを現実の経済の動きに応用できるか、新聞の経済記事を読むと、そのようなことが試される。効用は抜群である。				
授業計画				
第1回 新聞の経済記事を読む効用				
第2回 メディア・リテラシーを考える				
第3回 新聞の経済記事を読む方法①				
第4回 新聞の経済記事を読む方法②				
第5回 教員による経済記事解説①				
第6回 教員による経済記事解説②				
第7回 教員による経済記事解説③				
第8回 教員による経済記事解説④				
第9回 学生による経済記事解説①				
第10回 学生による経済記事解説②				
第11回 学生による経済記事解説③				
第12回 学生による経済記事解説④				
第13回 学生による経済記事解説⑤				
第14回 学生による経済記事解説⑥				
第15回 学生による経済記事解説⑦				
第16回 定期試験				
テキスト	テキストは使用しない。講義のなかで資料を配付する。			
参考文献	講義のなかで紹介する。			
評価の方法	「学生による経済記事解説」および定期試験によって総合的に判定する。			
学生へのメッセージ	新聞の経済記事を読むことを習慣化しよう。			

科目名	経営学Ⅱ	科目分類	□教養科目 ■専門科目
			経済 マネジ
英文表記	Business AdministrationⅡ	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年
ふりがな	まつなが くにまさ	修得単位	2単位
担当者名	松永州正		
授業の到達目標 及びテーマ	[到達目標] 経営戦略に関する基礎的な考え方を理解する。 [テーマ] 経営戦略論の基礎		
準備学習	特に予備知識は要求しない。ただし、事前に身近に存在する企業の行動の原理を考えてみる こと。また、テキストの関連部分を事前に読むことが望まれる。		
【授業概要】経営学とは企業(広くとらえれば組織)の運営に関する学問である。企業経営は「戦略を立てる」「組織を作る」「人を動かす」という3つのマネジメント活動から成り立つ。本講義はそのうちの「戦略を立てる」という視点に立ち、経営戦略の基礎について考える。			
授業計画			
第1回 企業における3つのマネジメント活動			
第2回 企業と環境			
第3回 経営戦略の体系—成長戦略と競争戦略—			
第4回 成長戦略Ⅰ—関連型多角化—			
第5回 成長戦略Ⅱ—非関連型多角化—			
第6回 成長戦略Ⅲ—戦略ビジョン—			
第7回 成長戦略Ⅳ—事業間の資源配分のあり方—			
第8回 競争戦略Ⅰ—非競争の方法—			
第9回 競争戦略Ⅱ—事業の定義—			
第10回 競争戦略Ⅲ—競争のドメインと経営資源—			
第11回 競争戦略Ⅳ—コストリーダーシップ戦略—			
第12回 競争戦略Ⅴ—製品差別化戦略—			
第13回 競争戦略Ⅵ—市場創造戦略—			
第14回 競争戦略Ⅶ—市場の発展と競争戦略—			
第15回 まとめ			
第16回 期末試験			
テキスト	坂下昭宣(2007)『経営学への招待』白桃書房		
参考文献	講義の中で紹介する。		
評価の方法	期末試験を中心に、授業中に課す課題を加味して評価する。		
学生への メッセージ	本講義を通じて経営戦略に関する基礎的な考え方を理解 できれば、たいへん望ましいことである。		

科目名	文章の表現Ⅱ	科目分類	■教養科目 □専門科目
			□必修 ■選択
英文表記	Composition Ⅱ	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年
ふりがな	はしもと しほ	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中
担当者名	橋元志保	修得単位	2 単位
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕優れた文学的文章や論説文を読みとき、それを考察し、表現する力を養成する。 〔テーマ〕読解力と表現力。文章表現の基本を身につける。		
準備学習	総合的に、読む力・書く力・表現する力を伸ばしていくので、毎回出される課題を着実にクリアすること。		
<p>【授業概要】良い文章とは、どのような文章なのでしょう。それは、テーマや表現、構成が優れているだけではなく、自分自身の価値観、心のありようが表れている文章だと思います。「文は人なり」という有名な言葉がありますが、文章を書くことは自分自身を見つめ直すことに繋がるのです。</p> <p>本講義では、自分自身の考えを明確に伝え、また論理的な文章が書けるようになるために、様々なことを学んでいきます。具体的には、テーマや構成、題材と表現、推敲の大切さ等、文章上達のためのポイントをわかりやすくお話しします。また、「家族とは何か」、「生きがいとは何か」等のテーマについて話し合いながら、実際に論理的な文章を書くことを学んでいきます。</p>			
授業計画			
第1回 心ありての言葉			
第2回 名文を読む①ーアルフォンス・デーケン「愛の言葉」ー			
第3回 名文を読む②ーアルフォンス・デーケン「愛の言葉」ー			
第4回 名文を書き写す①ー和辻哲郎の文章からー			
第5回 名文を書き写す②ー東山魁夷の文章からー			
第6回 論作文を書いてみよう①ー家族とは何かー			
第7回 論作文を書いてみよう②ー少子高齢化と現代の家族ー			
第8回 論作文を書いてみよう③ー老々介護と福祉問題ー			
第9回 推敲の方法			
第10回 構成法と引用・要約について			
第11回 文章作成上の様々なルールについてー公用文における用字法他ー			
第12回 論作文を書いてみよう①ー生きがいとは何かー			
第13回 論作文を書いてみよう②ー「持つこと」と「在ること」ー			
第14回 論作文を書いてみよう③ー生きがいと自己実現ー			
第15回 総括			
第16回 後期試験			
テキスト	速水博司 『大学生のための文章表現入門』 蒼丘書林		
参考文献	授業の際に紹介します。		
評価の方法	出席や授業態度、課題、試験の総合評価とします。		
学生への メッセージ			

科目名	小論文の書き方	科目分類	■教養科目 □専門科目
			□必修 □選択
英文表記	Critical Thinking and Writing	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年
ふりがな	はしもと しほ	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中
担当者名	橋元志保	修得単位	2 単位
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕 公務員試験（地方上級レベル）の論文試験に取り組むことのできる力を養成する。 〔テーマ〕 論理的文章を書くための基本を学ぶ。		
準備学習	課題として与えられたプリントは必ずやってくる。段階的に書く力を伸ばしていくので、一つ一つの課題をしっかりとクリアしていくことが大切です。		
<b>【授業概要】</b>			
<p>本講義では、小論文やレポートの基本的な書き方を学びます。大学生活において、論理的な文章を「書く」という行為は欠かせないものです。定期試験における文章問題やレポート、そして卒業論文など、「テーマを決め、それに基づいて資料を集め、構成を考え、まとめていく」という作業を行うことは非常に多いのです。</p> <p>まず初めに、テーマの設定や資料の検索の仕方、構成の重要性、引用・要約の方法などを学んでいきます。また、自分が書いた文章を、表記や文体、構成などの観点から、より良い文章に推敲していくスキルも身につけていきましょう。段階的に書く力を伸ばしていきますが、時事問題の効果的な取り入れ方についても学び、最終的には公務員の論文試験をクリアできる力を養成することを目指していきます。</p>			
授業計画			
第1回 学術論文と試験論文とは			
第2回 テーマと構成法、表現と文体について			
第3回 課題文型試験をクリアする方法①			
第4回 課題文型試験をクリアする方法②			
第5回 小論文を書いてみよう①－三段構成法とは－			
第6回 小論文を書いてみよう②－事実と意見－			
第7回 小論文を書いてみよう③－テーマの伝え方－			
第8回 推敲の方法			
第9回 公務員試験の論文対策①			
第10回 公務員試験の論文対策②			
第11回 時事問題の学び方①－格差社会－			
第12回 時事問題の学び方②－グローバル化と国際化－			
第13回 時事問題の学び方③－環境問題について－			
第14回 時事問題の学び方④－循環型社会の構築－			
第15回 総括			
第16回 後期試験			
テキスト	資料を配布します。		
参考文献	授業の際に、紹介します。		
評価の方法	出席や授業態度、課題、試験の総合評価とします。		
学生へのメッセージ	公務員試験の論文対策を行います。志望者はぜひ受講してください。		

科目名	刑法総論	科目分類	<input type="checkbox"/> 教養科目 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目
			法律 <input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
			観光 <input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択
英文表記	Criminal Law (general part)	開講年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年
ふりがな	あきやま えいいち	開講期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中
担当者名	秋山 栄一	修得単位	4 単位
授業の到達目標 及びテーマ	犯罪論の基本的理解		
準備学習	指定されたテキストに一通り目を通し、その上で、次回の講義の単元を読む。また、日々の報道に関心を持ち、社会の出来事に目を向け、耳を傾けることを望む。		
授業概要	犯罪と刑罰に関する法律である刑法は、私達の日常生活に密接にかかわっている。刑法は身近な存在でなければならない。市民に理解された行為規範として機能すべきである刑法は、その理論性、思想性を前提とした学説の対立の激しさの故に、敬遠されがちである。そこで、本講義では、基本用語の理解から刑法の機能や犯罪の理論的把握、刑罰の根拠などの基本的問題について理解しやすくするために、判例の動向や事例を活用して体系的に段階的に議論を進めていく。なお、講義の進行方式としては、単元ごとにレジュメを配布し、その流れに従っていく予定である。それ故、必ずしも指定のテキストの順序に従うとは限らないことがあることをお断りしておく。		
授業計画			
第1回 講義ガイダンス 刑法を学ぶ前提としての基本概念の理解	第17回 責任論の本質と構造		
第2回 刑法及び刑法学の概念 刑法の意義、規範、機能	第18回 責任能力		
第3回 刑法及び刑法理論 刑法思想・学説史	第19回 責任故意・過失と違法性の意識、錯誤		
第4回 刑法の基本主義 罪刑法定主義、責任主義等	第20回 期待可能性		
第5回 犯罪論の基礎と体系	第21回 修正された構成要件該当性① 未遂犯		
第6回 構成要件の意義と機能	第22回 修正された構成要件該当性② 未遂犯②		
第7回 基本的構成要件該当性① 実行行為	第23回 修正された構成要件該当性③ 共犯論の基礎、共同正犯		
第8回 基本的構成要件該当性② 因果関係	第24回 修正された構成要件該当性④ 教唆犯・従犯		
第9回 基本的構成要件該当性③ 構成要件の故意・過失、錯誤	第25回 修正された構成要件該当性⑤ 共犯をめぐる諸問題		
第10回 違法性の本質	第26回 小括		
第11回 違法性阻却事由① 正当防衛	第27回 罪数論		
第12回 違法性阻却事由② 緊急避難	第28回 刑罰論の本質		
第13回 違法性阻却事由③ 正当行為	第29回 刑の種類、刑の量定、執行		
第14回 違法性をめぐる諸問題	第30回 後半の総括		
第15回 前半の総括	第31回 全体の総括		
第16回 試験①	第32回 試験②		
テキスト	大塚仁『刑法入門』〔第4版〕有斐閣 2003		
参考文献	大塚仁『刑法概説第〔第4版〕』有斐閣 2008、西田典之・山口厚編『刑法判例百選Ⅰ〔第6版〕』有斐閣		
評価の方法	2/3以上の出席を前提として、出席30%、試験70%の割合で、厳正に評価する。		
学生への メッセージ	指定テキスト・最新の六法・ノート・毎回配布するレジュメを必携のこと、また積極的な講義参加を望む。		

科目名	民法総則（民法の入門）	科目分類	□教養科目 ■専門科目
			法律
英文表記	Civil Law（General part）	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年
ふりがな	なかざと まこと	開講期間	□前期 □後期 □通年 □集中
担当者名	中里 真	修得単位	4単位
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕民法全体を見通せるようにすることを目標とする。 〔テーマ〕私法のイメージをつかむ		
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次回講義内容は、事前に教科書を読む。わからなくても良いので必ず目を通す。</li> <li>・ 教科書に記載されている判例については可能な限り内容を確認する。</li> </ul>		
講義概要	本講義では、民法をはじめとする私法全体に関わる総則分野についての細則を学びます。なお、受講者の理解に基づき講義の進行具合が変わるため、状況に応じて下記計画は変更します。		
講義計画			
第1回 ガイダンス・民法総則とは	第17回 意思の欠缺・心裡留保・虚偽表示		
第2回 民法の基本原則	第18回 虚偽表示の第三者保護		
第3回 権利の主体・私権、私権の享有	第19回 94条2項の類推適用		
第4回 権利能力・その始期と終期	第20回 錯誤		
第5回 権利能力 - 自然人と法人	第21回 瑕疵ある意思表示（詐欺・強迫）		
第6回 意思能力 行為能力	第22回 無効と取消		
第7回 制限行為能力者	第23回 代理の要件・基本原則		
第8回 成年後見制度	第24回 無権代理の種類		
第9回 住所、不在者と失踪宣告	第25回 追認・追認拒絶の拡張事例 - 無権代理と相続		
第10回 法人、意義と種類・一般法人法概説	第26回 表見代理の種類・ 権限授与表示による表見代理		
第11回 法人の能力	第27回 権限外の行為の表見代理・ 代理権消滅後の表見代理		
第12回 法人の機関・権利の客体、物	第28回 表見代理の拡張問題		
第13回 法律行為	第29回 期間 条件、期限		
第14回 法律行為の解釈	第30回 時効・時効の援用と放棄 時効の中断、停止		
第15回 法律行為の内容・公序良俗・任意規定	第31回 学期末試験		
第16回 意思表示の構造	第32回		
テキスト	安井宏ほか著「プリメール民法1民法入門・民法総則[第3版]」（法律文化社） ポケット六法などの小型六法必須		
参考文献	「民法判例百選I（第6版）」有斐閣		
単位認定の方法	試験（途中小試験を行うこともある）と受講状況等で評価（2/3以上の出席は必須）		
学生へのメッセージ	法律学における総則分野は、抽象的で理解が難しいといわれています。みなさんは漫然と聴講するのではなく、予習・復習・質問などを通して積極的に参加してください。		

科目名	<b>地理学の基礎Ⅱ</b>	科目分類	■教養科目 □専門科目	
			法学部	□必修 ■選択
			経済学部	□必修 ■選択
英文表記	<b>Geography Ⅱ</b>	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年	
ふりがな	ごとう ただし	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
担当者名	後藤 忠志	修得単位	2単位	
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕日本と世界の地誌について基本事項を理解する。 〔テーマ〕日本の地誌と世界の地誌、			
準備学習	・可能であれば、高校か中学校の地理の教科書や地図帳を使って、毎回の関連項目に目を通しておくと学習しやすいでしょう。また、新聞やTVなどで最新の日本情勢、世界情勢を把握しておくにより理解が深まるでしょう			
【授業概要】本授業では系統地理と並ぶ、地理学の二大分野の内の一つ、日本と外国の地誌について学びます。				
授業計画				
第1回 日本の国土と自然 1				
第2回 日本の国土と自然 2				
第3回 北海道				
第4回 東北				
第5回 関東				
第6回 東海				
第7回 北陸・甲信越				
第8回 近畿				
第9回 中国・四国				
第10回 九州・沖縄				
第11回 ロシア・中国				
第12回 韓国・他アジア・オセアニア				
第13回 ヨーロッパ				
第14回 アメリカ				
第15回 外題の国家と民族問題				
第16回 試験				
テキスト	二宮書店『詳解現代地図 2012－2013』2012年、1600円			
参考文献	授業中に紹介します。			
評価の方法	総合評価(出欠、受講態度、提出物、試験等)			
学生への メッセージ	日本や世界のニュースを時々、見てください。			

科目名	日本の歴史Ⅱ	科目分類	□教養科目 □専門科目	
				□必修 □選択
			□必修 □選択	
英文表記		開講年次	□1年 □2年 □3年 □4年	
ふりがな	はなだ ふじお	開講期間	□前期 □後期 □通年 □集中	
担当者名	花田 富二夫	修得単位	2単位	
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕 中世から近世への流れをつかむ 〔テーマ〕 武家政治を中心に文化的な面にも注視する			
準備学習	※日本中世から近世への流れを整理し、振り返っていただきます。			
【授業概要】 中世の歴史的重要事項に触れながら、信長、秀吉から家康登場までの武家政治について学習を深めます。また、室町文化など、現在の文化の基盤となっているものについても理解を深めます。				
授業計画				
第1回 鎌倉幕府北条氏の台頭について				
第2回 元寇の役について				
第3回 応仁の乱について				
第4回 室町文化と能楽について				
第5回 下剋上と戦国大名について				
第6回 ヨーロッパ人の来航について				
第7回 天正遣欧使節について				
第8回 織田信長の台頭について				
第9回 豊臣秀吉の台頭について				
第10回 秀吉の政治―太閤検地について				
第11回 秀吉の対外政策―文禄・慶長の役について				
第12回 文禄・慶長の役の終焉について				
第13回 徳川家康の台頭について				
第14回 江戸幕府の成立へ―関ヶ原の戦い				
第15回 江戸初期の文化―浄瑠璃と歌舞伎について				
第16回 試験				
テキスト	特になし。毎回プリントで行う			
参考文献	授業時間に指示する			
評価の方法	※授業への出席や小レポートならびに試験で総合的に評価する			
学生への メッセージ	ほとんど毎時間、授業のまとめのペーパーを提出してもらいます。したがって遅刻、中途退出者は欠課となります。			

科目名	景観論入門	科目分類	<input type="checkbox"/> 教養科目 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目
			<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択
英文表記	Introduction to Landscape theory	開講年次	<input type="checkbox"/> 1年 <input checked="" type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年
ふりがな	わたべたかあき いのうえひろし	修得単位	2単位
担当者名	渡部 高明 ・井上 寛		
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕景観の意義と「みる」視点を養うこと 〔テーマ〕景観からの観光とまちづくり		
準備学習	日々の生活や旅行した際に、景観や風景を感じ取ってください。		
【授業概要】景観の意義・種類を学びつつ、景観や風景をみる力を養うとともに、景観が観光まちづくりに及ぼす仕組み、観光客を感動させる景観とは何かを考える授業を展開します。			
授業計画			
第1回 ガイダンス 景観とは			
第2回 景観分野の多様性（自然景観、歴史・文化景観、都市景観など）			
第3回 八景と百景			
第4回 景観と行政			
第5回 景観権と裁判（国立マンション訴訟）			
第6回 景観法と景観計画（秋田市景観計画）			
第7回 景観とまちづくりⅠ			
第8回 景観とまちづくりⅡ 小テスト			
第9回 イメージと景観論			
第10回 ポニョの舞台と鞆の浦			
第11回 蔵のまち喜多方と景観			
第12回 テーマタウンと景観—タイムスリップしたまち			
第13回 ジブリ作品に描かれた海外のまちと景観			
第14回 ノスタルジアと景観			
第15回 まとめと復習			
第16回 試験			
テキスト	【前半】八戸地域社会研究会『市民の街づくり』伊吉書院 2000年（1,500円） 【後半】講義内で適宜資料を配布		
参考文献	講義内で適宜指示する（図書館に参考文献あり）		
評価の方法	定期試験、出席状況等により総合的に評価		
学生への メッセージ	景観の見方を身につけ、観光とまちづくりを楽しく学びましょう。		

科目名	テーマパーク論	科目分類	□教養科目 ■専門科目
			□必修 □選択 観光 □必修 ■選択
英文表記	Theme Park	開講年次	□1年 □2年 ■3年 □4年
ふりがな	おく まさ たか	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中
担当者名	奥 正 孝	修得単位	2単位
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕テーマパークの生みの親W・ディズニーの歴史を知る。日本では、特定のテーマ（特定の国の文化や、物語、映画、時代）をベースに全体が演出された観光施設である。 〔テーマ〕		
準備学習	前回の講義ノート、資料に目を通す テーマパークに関係のある記事をスクラップする		
【授業概要】テーマパークの歴史 遊園地とテーマパークの違い 地域貢献の特性の分析 経済的効果等を理解する。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション			
第2回 テーマパークの社会的な役割			
第3回 テーマパークの構造と市場規模			
第4回 テーマパークのモデル事例の分析			
第5回 テーマパークの地域貢献			
第6回 消えたテーマパークとそ要因			
第7回 ウォルト・ディズニーの夢の実現			
第8回 各社事例：日本で初めての「大阪万博（博覧会）」			
第9回 各社事例：斜陽になった時代劇活性化の為にできた「東映の映画村」			
第10回 各社事例：60年前から実施されていた「ディズニーランド」			
第11回 各社事例：大阪市活性化の為に創られたテーマパーク「USJ」			
第12回 各社事例：「ハウステンボス」と海外航路の客船			
第13回 各社事例：子供が仕事体験のできる「キッズニア」			
第14回 各社事例：東北観光博			
第15回 各社事例：映画撮影が実施されている「庄内映画村」			
第16回 テスト			
テキスト	地域創造の展開案としてのテーマパークコンセプト立案 (社) 日本イベント産業振興協会 (非売品) 資料を配布		
参考文献	テーマパークにおける実態と課題		
評価の方法	※出席数・受講態度・レポート・定期試験との総合評価		
学生への メッセージ	私は1990年に開催された花と緑の国際博覧会を運営 していました。これもテーマパークの一種です。		

科目名	観光法規	科目分類	□教養科目 ■専門科目	
			観光	■必修 □選択
			法律	□必修 ■選択
英文表記	Tourism Law	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年	
ふりがな	みちはた ただよし	修得単位	2 単位	
担当者名	道端 忠孝			
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕観光法令に基づくまちづくりのあり方の理解 〔テーマ〕観光振興と観光法令の関係の明確化			
準備学習	基本的には、プリントを配付してすすめていきますので、よく整理し、復習をしっかりとっておいてください。			
【授業概要】今、観光立国推進基本法を基本法として種々の法令が定められています。そこで、本稿では、観光法令の体系や分類を明らかにし、観光振興と観光法令の関係を明確にしたうえで、観光事業法令や、観光開発法令（リゾート法など）のほか、景観法、文化財保護法、グリーンツーリズム法、エコツーリズム法、観光圏整備法などを取り上げることにしたい。				
授業計画				
第1回 ガイダンス；県内各地の観光まちづくりの現状などを紹介				
第2回 観光、観光立国、観光立県、観光立町				
第3回 観光と法律・行政				
第4回 観光法の意義・体系				
第5回 観光立国推進基本法と旧観光基本法				
第6回 観光立国推進基本法の概要				
第7回 リゾート法の概要				
第8回 ゾート法の諸問題				
第9回 景観法				
第10回 文化財保護法と景観整備・歴史まちづくり法				
第11回 グリーンツーリズム法				
第12回 エコツーリズム法				
第13回 観光圏整備法				
第14回 観光私法①旅行会社と客の法律関係				
第15回 観光私法②ホテル・旅館と客の法律関係				
第16回 試験				
テキスト	開講時に指示する。			
参考文献	開講時に指示する。			
評価の方法	試験と出席状況・受講態度等で総合評価します。			
学生への メッセージ	自分の生まれた市町村は今後どのようにすれば、より良い観光地になっていくか、考えながら受講しましょう。			

科目名	世界のホテル日本のホテル	科目分類	□教養科目 ■専門科目	
			法律	□必修 □選択
			観光	□必修 ■選択
英文表記	What is Hotel / Overseas & Japan	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年	
ふりがな	むかいやち ひろのぶ	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中	
担当者名	向谷地 博信	修得単位	2単位	
授業の到達目標及びテーマ	秋田の身近なホテルはホテルの一形態に過ぎない。海外と日本の一流のホテルに例をとり、ホテルとは何なのか、上手な使い方も含めホテルの世界を楽しく学ぶ。			
準備学習	事前配布TEXTと関連する新聞記事を授業の前に目を通しておくこと。授業では各自最低1つの質問を課する			
【授業概要】				
ホテルに関わる最新の豊富な情報を資料とビデオによりホテルの世界の全体像を包括的に理解する。また事例研究により考え表現する力を涵養する				
第1回 オリエンテーション				
第2回 やさしいホテルの歴史				
第3回 ホテルと旅館の違いを考えてみよう				
第4回 やさしいホテルの上手な使い方				
第5回 世界のホテル1 リゾートホテル				
第6回 世界のホテル2 リゾートホテル				
第7回 世界のホテル3 クラシックホテル				
第8回 世界のホテル4 クラシックホテル				
第9回 世界のホテル5 シティホテル				
第10回 世界のホテル6 シティホテル				
第11回 日本のホテル1 外資系ホテル				
第12回 日本のホテル2 外資系ホテル				
第13回 日本のホテル3 日系ホテル				
第14回 日本のホテル4 日系ホテル				
第15回 まとめとキャリアデザイン				
第16回 試験				
テキスト	パワーポイント、ビデオと資料			
参考文献	授業の中で紹介します			
評価の方法	出席数、試験、受講姿勢の総合評価			
学生へのメッセージ	ホテル事業は21世紀の日本の成長分野です。最新の豊富な事例に基づきホテルの楽しさを紹介します。			

科目名	観光人類学	科目分類	<input type="checkbox"/> 教養科目 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目
			<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択
英文表記	Tourism Anthropology	開講年次	<input type="checkbox"/> 1年 <input checked="" type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年
ふりがな	いのうえ ひろし	修得単位	2単位
担当者名	井上 寛		
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕「観光」の切り口から社会をみることができる 〔テーマ〕観光と文化		
準備学習	インターネットや旅行のパンフレットをたくさん見て、観光と文化に親しんでください。		
【授業概要】観光において「文化」は重要なテーマのひとつです。なぜなら、文化は人類が作りあげたものですし、それを「みる」行為である「観光」も人類が作りあげた「文化」です。この時間は、世界遺産や秋田の文化を「観光」の切り口からみる力をつけることを目標にします。			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回 観光・文化・擬似イベント			
第3回 ペットツーリズムの時代			
第4回 ゆるキャラと観光人類学			
第5回 中国の観光を作り出すしかけ			
第6回 ディズニーランドと巡礼			
第7回 オーロラ・サンタクロース・サーミ人			
第8回 観光商品と文化 ベトナムはおもしろい			
第9回 情報資本主義と近代観光			
第10回 バックパッカーツーリズムと消費文化			
第11回 大河ドラマと観光			
第12回 アニメツーリズムと観光まちづくり			
第13回 ヘリテージツーリズムの光と影			
第14回 観光からの排除された人たち			
第15回 まとめ・復習			
第16回 定期試験			
テキスト	講義内で適宜資料を配布		
参考文献	山下晋司著『観光文化学』新曜社 2007年 (2,100円)		
評価の方法	定期試験と出席状況等により総合的に評価		
学生への メッセージ	難しそうに感じるテーマですが、世界遺産、テーマパーク、ゆるキャラなど、これらは「観光と文化」に関係するテーマです。楽しく学びましょう。		